

## 【「山門」の概要】

### <規模・形状>

- 形式: 総檜造りの一間薬医門
- 梁間: 1,091mm(軒先で 3,179mm)
- 桁行: 2,045mm(軒先で 3,803mm)
- 形状: 切妻造り
- 屋根: 棧瓦葺き

### <意匠>

- ・総檜造りの格式高い形式の一間薬医門(※)で、切妻造り、左右には一間の両袖塀が付き、軒の出は正面が 1.091m、螭羽(けらば)の出は 0.991m と大きな出となっています。
  - ・鏡柱の頂部には碁平の冠木が乗り、背後の控え柱の桁行方向に相当する丸太の梁はなく、柱筋だけの 2 本とした特異な形式としています。
  - ・扉は檜の幅広一枚板で杵は寺の繁栄を願って笏(たけのこもく)としています。
- ※薬医門: 門柱(本柱)の後ろに控え柱が2本設けられた門の総称



龍高寺 山門

## 【「六地藏堂」の概要】

### <規模・形状等>

- 規 模:梁間3尺(909mm)、桁行9尺(2,727mm)
- 形 状:切妻造り
- 屋 根:こけら葺風 ガルバリウム鋼板葺[軒の出1尺5寸(454.5mm)、  
螻羽(けらば)の出1尺5寸強]

### <意匠>

- ・材質は正面の虹梁だけは檜とし、それ以外は良質な総檜とし、高度な組手等の技法及び立派な意匠としています。平面は堂の正面を吹き抜けにして浜床を作って花燭香を供えやすくし、軸部の柱や桁及び垂木は大面取りとし、腰長押と内法長押を廻し、両側面と背面には貫を通して固め堅板張りとします。
- ・正面の水引虹梁や妻虹梁には七五三の袖切りや忍冬唐草の彫刻を施し、軒は化粧垂木に反り増しを付け、茅負や軒付積を付けて軒の出や螻羽を大きく出し、破風板の下端や先端には眉決りを付けます。屋根は小社な地藏堂ながら軒先両端と屋根面に緩やかな反りを付け、棟は品板に樋棟を乗せて両端に鬼を据え、寺紋を施します。



龍高寺 六地藏堂